

# 報告書

開催日時	平成 27 年 10 月 7 日 (水) 19 : 00 ~ 20 : 31		
開催場所	朝日公民館		
出席議員	(3 班) 大谷・飯田・古田・安達・渡辺		
	班 長	飯田	
	司会者	飯田	
	記録者	安達	
参加人数	12 名		
主な要望 ・ 提言等	○A氏		
	1、日田林工とタイアップした学部の創設とあるが、林業に関するものか？		
	具体的な話にはなっていない。国の機関移設の話と合わせて、林業関係に力を入れていくべきという話である。		
	2、結婚しない人が多い。その理由として、日田は給料が安いからしない。その中で、大企業である日田市役所の給料が高いと思う。 日田市役所で、姫島村のようなワークシェアリング制度を取り入れることはできないものか？		
姫島方式が日田市に当てはまるかという問題がある。島の中の仕組みであり、他市と合併できなかった。 人口減少問題について、政策研究会で取り上げ、婚活支援に取り組む必要があるとして、あわせて子育て支援についても取り組み始めた。			
3、財政が厳しい状態だと思うが、再建団体になることはないのか？			
そうならないように、取り組んでいる。きびしい財政状況を認識し、今のやり方をしていけば、そうなることはないと思う。			
○B氏			
1、これだけの施策を全部実施すると、お金はどれぐらいかかるのか？ 人口減少に歯止めがかかるのか？			
それぞれの委員会で、予算面は考えずに課題を洗い出し、進めている。 人口減少の歯止めは難しいが、如何にとどめるかが課題である。 (人口ビジョンの内容説明)			

2、予算の裏付けがない施策の論議は、空中の議論になっている。

市の職員数が、類似団体に比べて多い。(総務省ホームページ掲載)職員数についても、振興局再編問題の前に、市役所本庁、振興センター等の組織全体を見直すべきである。

人口が減っていく中で、課題と捉えている。市民サービスの低下を招かない程度に、削減を働きかけていく。

3、公共交通のネットワーク化についてであるが、スクールバスの有効活用はできないものか？ 生涯大長寿の意味は？ 県立高校の統合の見通しは？

43台のスクールバスがあるが、目的外使用ということで文科省の許可が出ない。国土交通省の規制もある。老人福祉バスとしての利用しているところもある。

県立高校の統合については、子どもの減少はあるものの、現体制はしばらく続くと思う。学級数の減少はあると思う。

大長寿町づくりは、高齢化社会に向けて取り組むためのアドバランと受け止めていただきたい。

○C氏

1、方策に具体的な策がないのでは。例えば、後継者問題についてはどうということなのか？

農業後継者問題については、農業委員会の調査を受け、具体策な支援について協議を考えているところである。

2、小迫辻原遺跡で、担当課の依頼で、草刈りをボランティアで対応している実態である。早く、整備をするべきである。

地域資産、文化財であるが、維持費がかかるという点は、担当委員会へ取り次いでいきたい。

○D氏

1、小迫辻原遺跡の公園化計画は、どうなっているのか？ 個人的には要らないと思う。

小迫辻原遺跡は、文化財である。用地を買収し、市の構想はあるが、まだ調査中である。調査の後、基本計画というスケジュールであるが、試算で30億円かかると聞いている。重要な文化財施設であるが、見通しは立っておらず、問題が多い。

○E氏

1、全体的に計画の発想が、右肩上がりの時代の考えとなっている。負債が増え、人口減少の現実を見て、人口が減少した時点を想定して、体制等をシュミレーションし、町づくりをするべきである。

その中で、市民がサービス低下を覚悟できる、現実性のある政策を立てるべきである。50年後を想定した長期展望をする必要がある。

貴重なご意見と受け止めて進めたい。

2、山田町は、人口120人であり、47パーセントの高齢化率である。

10年後には高齢化率も60パーセントを超す状況である。

自治会機能が成り立たなくなる。今後、自治会組織を維持できるような検討を今からして頂きたい。

どこの地域でも問題であり、市全体の問題である。取り組んでいきたい。

○F氏

1、周辺部をはじめ、1,100軒と空き家が多いが、今後も増加すると思う。崩壊の危険がある家屋については、方策はないか？

廃屋については、個人の財産であり、現時点では方策はない。危険家屋については、代執行制度があるが、所有者負担となる。

今後の課題となってくる。